

# QVT Monitor 0.2.2 リリースノート

2020年08月03日

(株)Bee Beans Technologies

## 1. 概要

本リリースには以下の内容が含まれています。

- Log Book で Raw データの波形を確認する機能の追加
- 機能改善
- 不具合修正

### 1.1. 参考資料

[1] (株)Bee Beans Technologies. QVT Monitor v0.2 リファレンスマニュアル. 1.0 版.

## 2. 注意事項

バージョンアップ時のアプリケーション設定継承を考慮し、設定ファイルの保存場所を変更しました。v0.1.8 の設定を v0.2.2 でご使用いただく場合、以下の手順で設定ファイルをコピーしてください。

- ① v0.2.2 の QVT Monitor を起動し、終了させます。この手順で、コピー先のフォルダが作成されます。
- ② v0.1.8 の QVT Monitor の実行形式があるフォルダを開きます。
- ③ Ctrl キーを押下しながら以下の 4 つのファイルを選択し、右クリックで表示されるコンテキストメニューで「コピー」を選択します。
  - .run
  - .params
  - .meas\_histograms
  - .ver\_histograms
- ④ Windows キーを押下した状態で s キーを押下し、Windows の検索欄を開きます。タスクバーに検索欄が表示されている場合、代わりに検索欄をクリックしても問題ありません。
- ⑤ 検索欄に「%localappdata%\QVT\_Monitor」と入力して表示されるフォルダを開いて右クリックし、「貼り付け」を選択します。

### 3. 機能追加

保存した Raw データを効率的に閲覧するために Event List ダイアログを追加しました。Event List ダイアログには以下の機能があります。

- 指定した測定に含まれる、電荷・電圧・時間について指定した条件に合致するイベントをリストアップできます。
- リストから選択したイベントの波形グラフを表示できます。
- リストアップされたイベント群の波形情報を表す CSV を書き出せます。書き出す内容として ADC 値か電圧を選択できます。

Event List ダイアログを表示するには、QVT Monitor ウィンドウの Log Book タブで Raw データを保存してある測定を選択し、Data タブの Show Event List ボタンをクリックします。詳しくはリファレンスマニュアル (1.1 参考資料[1]) の 2.10 をご覧ください。

### 4. 仕様の変更

#### 4.1. 設定ファイルのパスの変更

QVT Monitor の設定ファイル保存場所を変更しました。詳しくは 2 注意事項をご覧ください。

#### 4.2. データ保存ディレクトリ初期値の変更

Options ダイアログで設定する、Raw データ等を保存するディレクトリのデフォルトパスを C:\Users\<ユーザ名>\Documents\QVT\_Monitor に変更しました。

#### 4.3. Calibration ファイル名入力の変更

Calibration ファイルのパスを Calibration ファイル作成用の測定終了後に入力するように変更しました。

#### 4.4. 設定ダイアログのモーダル化

一部の設定ダイアログが、開いているときに他のウィンドウ操作が可能なモードレスダイアログでしたが、操作の整合性に問題が出る可能性があるため、ダイアログが開いている最中は操作ができないモーダルダイアログに変更しました。

- Options
- Connection
- Device
- Calibration File Creation

#### 4.5. 測定・Histograms 設定読み込み時の結果表示

測定・Histograms のパラメータ表示画面で、測定・分析の設定を読み込んで使用する場合に読込結果メッセージを表示するよう変更しました。

#### 4.6. Available Size 設定の廃止

v0.1.8 でビンのステップ数を最大 4096 としたため、Options ダイアログの Available Size 設定を廃止しました。

#### 4.7. 電荷・電圧の BIN 設定で不適切な最小値・最大値の入力禁止

電荷・電圧のビンの最小値や最大値に入力可能な範囲を適切に変更しました。本機のチャンネルへ入力はインピーダンス 50Ω、-62mV~+192mV です。

## 5. 解消された不具合

本バージョンで解消された不具合は下表のとおりです。

**表 5-1. 解消された不具合**

項目	不具合
1	Log Book で Time グラフを表示する際、実際のサンプリングレートによらず、時間軸が 1Gsps の時と同様に表示される。
2	Vth Monitor 使用時にソフトウェアがフリーズする場合がある。
3	Device ダイアログの Source に NIM-IN1 を指定すると再起動時に NIM-IN0 となる。
4	Log Book の Event Count に測定終了直前の受信イベントが含まれていない場合がある。
5	測定中の LAN ケーブル抜け等、通信異常が発生した時、測定を正常に終了できない。
6	Calibration ファイル作成中、Cancel ボタンが反応しにくいことがある。
7	デジタイザ本体との通信異常により、次回接続時に長時間接続できなくなることがある。

## 6. 既知の問題

本バージョンには、現在調査・対策中の以下の問題が確認されております。

- 1D グラフのピーク検索機能の対象となるデータが Ch. 0 のデータに限定される。
- Log Book タブで表示した測定済みデータのグラフダイアログで、測定中にのみ使用する自動更新を有効化できる。
- 各チャンネルの波形データ 1024 サンプルのうち 996 番目以降に、6 サンプル分の長さの約 -4mV のノイズが入ることがある。

以上。